

有志学生の山形城絵図の研究成果として 小冊子『最上期山形城絵図の世界』を刊行

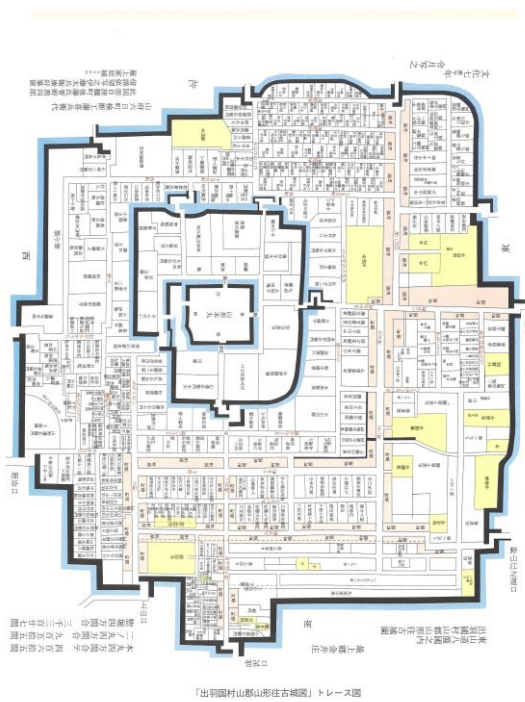
東北芸術工科大学（山形市上桜田／学長 中山ダイスケ）芸術学部 歴史遺産学科では、近年の発掘調査で徐々に当時の姿が明らかになっている、最上家が築いた近世山形城（1592年頃～1622年）と城下の景観を描いた城絵図しろえずの読み解きに有志学生が挑戦し、研究成果として小冊子『最上期山形城絵図の世界』にまとめました。

城絵図とは、城郭の堀や土塁、城下町の街路や屋敷、河川や水路など豊富な情報が描かれた絵図で、多くの文字情報も書き込まれていることから、当時の様子を知ることができる重要な資料です。

■『最上期山形城絵図の世界』の特徴

近世山形城の研究のために学術上重要とされている城絵図6点を取り上げています。

1. 「最上山形之図」宮城県図書館蔵（涌谷互理家本Ⅰ）（）内は通称
2. 「出羽国村山郡山形往古城図」個人蔵（伊藤本）
3. 「最上家在城諸家中町割図」山形県立図書館蔵（藤原守春本）
4. 「羽陽山形城郭準縄 家中分野」公益財団法人致道博物館所蔵（致道館本）
5. 「(仮)最上山形城図（下図）」個人蔵（秋元本）
6. 「出羽国最上山形城図絵図」国立公文書館蔵（正保城絵図）



1～3、6の四点はオルソ画像※1、トレース図、くずし字の翻刻※2、絵図の解説文を、4、5の二点はオルソ画像と解説文を掲載しています。

これまでに山形城図のオルソ画像や翻刻が掲載されたものはなく、山形城研究に資する内容となっています。

※1 オルソ画像：ゆがみのない正射画像。絵図一点あたり50～100点の写真を撮影し、専用ソフトを用いて合成したもの（フォトグラメトリー）。

※2 翻刻：古文書等のくずし字を読み取り、活字化すること。

左図：トレース、翻刻された城絵図

つきましては、本取り組みをより多くの方にお知らせしたく、取材・広報のお願いを申し上げます。
取材いただける場合は、本取り組みを監修した歴史遺産学科教授の北野博司教授と取り組んだ学生のスケジュールを調整いたします。

■『最上期山形城絵図の世界』概要

体裁：A4 判中綴じ 28 ページ（表紙込）フルカラー

配布先：山形県内の自治体、図書館、高等学校、県外の大学、自治体を予定。

編集：最上期山形城絵図再考プロジェクト

発行：東北芸術工科大学 歴史遺産学科

■本件に関するお問い合わせ先

東北芸術工科大学 入試広報課

TEL：023-627-2246 FAX：023-627-2081

E-mail：public@aga.tuad.ac.jp